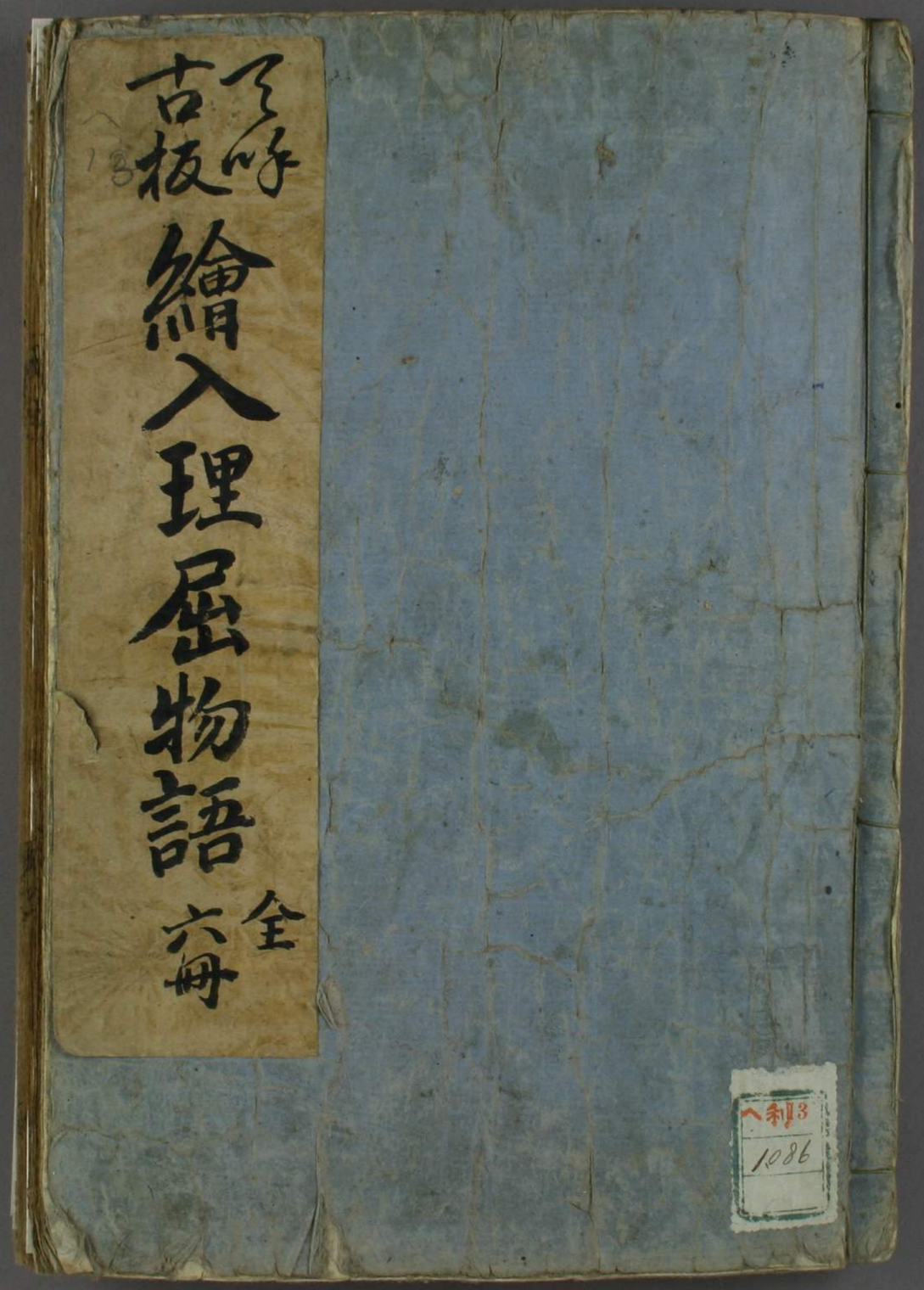
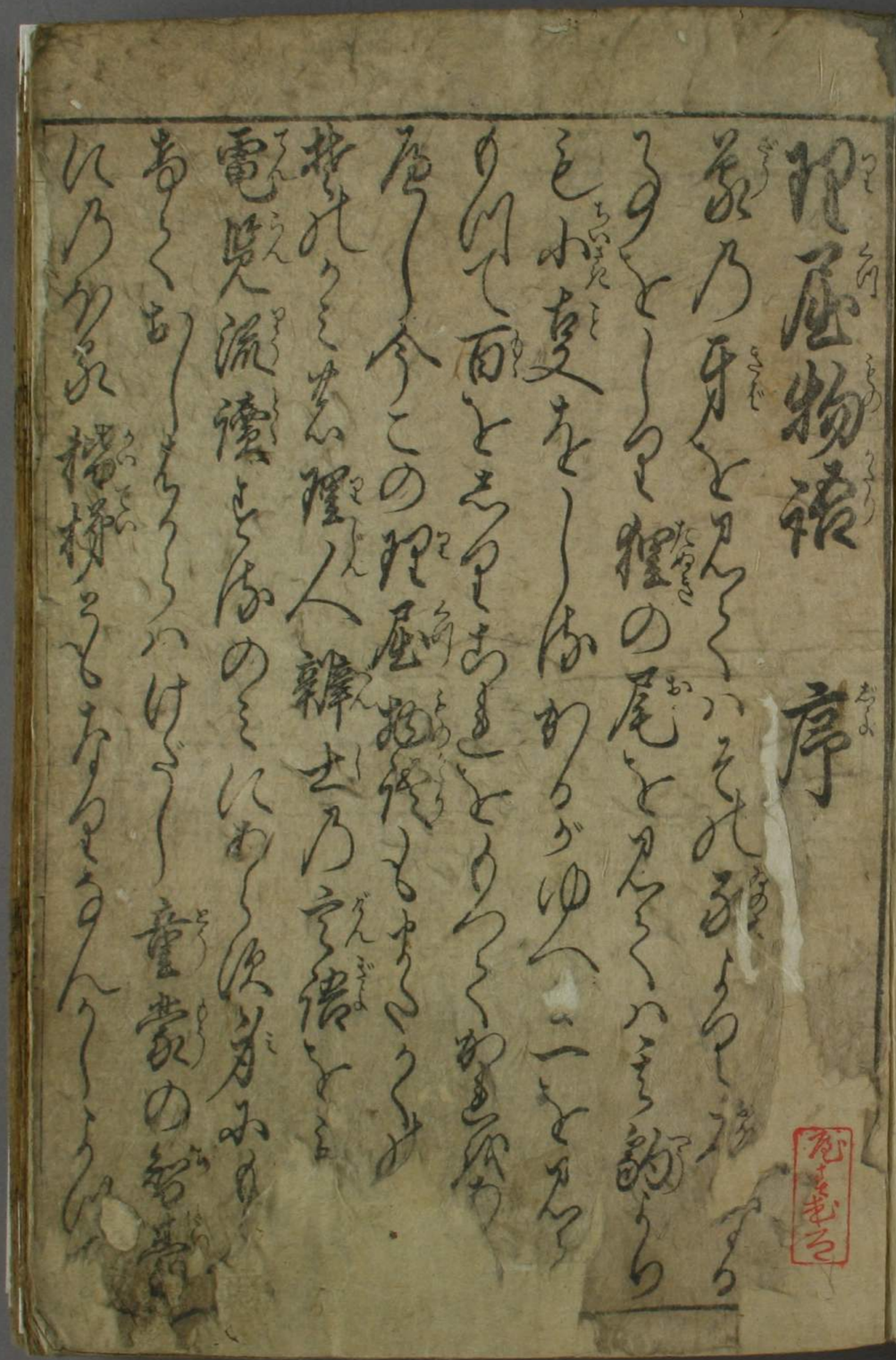

古板
繪入理屈物語
全六冊
へ113
1086

門へ和73
1086

理屈物語全部六冊合本

理屈物語

序



和漢の故事を綴輯したるものにて
理屈物語序
有客問余曰何以稱理屈也余答曰理
者正也屈者曲也言禦人以正理之口
給則人屈曲於其理而不能言其餘此
所謂理屈也理屈者滑稽也理屈之於
人也多在辯捷之人如彼晏子之使楚
淳于髡之諷齊優孟之葬六畜之類則
皆滑稽之人而使辯理屈曲王者也此

則理屈與滑稽所以無異也矣蓋以此
書之所載也往々俳優之事而無非滑
稽之言然則稱此書曰理屈物語不亦
宜乎客曰然

皆

寛文七禩歳舍丁未三月之吉

徑山子序

理屈物語上之一目録

一 齊の晏子楚へ使する事
二 老嫗劍を真よりもとめる事
三 ちとをおどろかぬ事
四 鼠を殺す百文の賞
五 酒とのゝそこを脱する事
六 なふるもうくふる
七 歌とゝして曲をとゝぬる
八 雪窠禪師乃事
九 踏る一行の事
十

十一 榜と書て市にかける

十二 詹何釣をして魚をとらざる事

十三 片橋車引事

十四 鮫鐸ふしんの事

十五 耳たぶなれた富貴よりなりかたし

十六 石より激ぎ流れ出る桃をかる事

十七 石崇士乃事

十八 青砥左衛門つりの事

十九 晶飯毛毛飯事

理屈物語草子之一

一 商の曼子楚王へ使する事

商の曼子楚王へ使する事

宮城県図書

あんし殿ゑ法ひよまあ赤

[illegible]

二

老姫御殿のまへ

[illegible]

時[illegible]の老姫あらてもゝ橋とゝ[illegible]

[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

びするうつのよめとこのこそのあつのあるのあるとら
ずしるたあひそのいるこあひ芙蓉
まひて酒の人乃月に大なる毒
あなるへしとそおる時芙蓉よ尚
赤ひそうにのもたるいるとこ
るとつきあそいてくどうそ人ハ
るとなるら二脳なりたまるさ
えこそあくとして一脳と出
てうに鶴うそ赤いるのうん
唐の三蕊うもく生るいそんや
とやうにのこけうとなら

七

何るもを好くいるる
りうう後漢の司る儀とうう人
ふのへばつはよへのるとうふ

たうりなとそつるのいさく琴歌なりもうとつるらいひそ
らんのるとのうる後郷へまそ儀の安雲とうふたうしこの
まるへるるおう人儀よあひてまとう
れいさうへてたようとのうりきう
徳うこんて来りてるとうるへうう
るんへのるれたうるとうそたよ
うそるへんりりへうこうもるたよ
うとうんのるれたるとうる儀

九

鞆とはうく曲とうぬる
りうう郭決るこのうへまるる時
るうるとうそうる石麦の帳とう
いうりて高とうる行うるうそくうれ
きうんりうくうのうれ曲ハ行とい
ととうへうる石麦のもうひていうく
あるうとうんりうくうにうあるそ

九

[illegible]寒稼師[illegible]

[illegible]寒稼師[illegible]

十

蹴鞠一作の事

[illegible]

十一

橋の事

[illegible]

十二

[illegible]

十三

牛場車の事

十四

て遊しゐんのおんためにかすうく愛宕の人乃いとくまうこの振舞のうへ
おもしろき樣樣とうけとるものあるまうんぞ仏法乃上げうゆゑ
人とうけしりうこうるものあるうへ今くいろう芝ゑのいうく三郎よ通
ぜうゆゑしかるあらうとそれ爲鶴のたぐひそびまらてたうく
菓子ふく蔓のけがをみそれうしきうゆへよ法乃うへ振舞
あるら爲鶴とおしううさんうめかふうあひまと用しくたうう
屋んやというう愛宕の人乃いとく愛鶴の尾みもまうちい見
ぜとつうるものあうのうのうんぞたうの尾よ爲鶴乃たうくもうて
うのあんやとうのうう芝ゑ大ようひていうくあやひうおうう通
ぜうるのそれ愛宕年八月代うう抑くり林のうちまいうて見
ようけうう樂うあくあれえうこのあひまとうう時ひ皮たう
ぶるのあううひして本よううてううさとうふゆへよ外うう振
ううくかうがゆへうこ振のうちとうへようあうぬへうさうたあひたうう
いんを愛の尾乃ちくハ爲鶴の菓ふうのとうをうんあうんや

いう愛宕の人乃いとくけをこれ振部 川手まうのうの歌くえて
ううとうとうふうもていうをのうう振部とうとうう鶴たうの振部と
まうさ本のえうれうあうようう振部
うをれうくうのりうひう時のたうち
うをれうあうふうとううう振部の見あたうのうくう皮
と月のうう歌とうのうくもうふうくんよ待うとうて悪あいひうとうていい
うく振部 手あうちあううう歌の等くあううのうて吾うう時の
うふうふうんとうすうるとあうしゆへよ振部とうどううて吾乃とたう
しうもうくとうこうへてうのあううらうう づうあけううとあうう
十八
耳たうう天冨美ふあうざうう
あうう法宗のは代の時歌度の度よあうあうあうしいふうのあ
ううあうて振部手あうあうのうのうう時法宗あのんあふそ
てのあうくけうとうく耳れたうのううとうの歌のううとうりゆま
うんうちげ耳ゆううりうんうちげうあうとうとうのうへ
ゆうあうあうこうへていうくけうとうけあうりうう待うふ通の耳ハうあうう

十六

石曼子と孫楚

十七

石曼子と乃事

ある時ふるき人ゆゑ時よるよのつれづれのあまりにものがたりのあまりて
[illegible]とをかしくもあるもしにおとろきてうけいそぐほど
石曼殊つゆよるもあらけるやしく人はたもけられて
よのうちてゆるぶれいもなく石氏の君さらかうゆゑよる
らるもあらしたれ我身もてぶけやふまひりしれ石氏の君
さあらうんものとぞ

十八

書紙を張つぐ事

ひとつ報光寺嚴勝寺ちかこの相伝よりてうけ申人
数よつてうけつ書紙を張つぐ事
出仕しけるにつをひとちかつ書紙を張つぐよりて
[illegible]清水へ参りけるに
町屋人とをかしかりてのかにあそこのかたらん
あそ[illegible]とをかしてこいまつと十把ひも
[illegible]の[illegible]と[illegible]ぬらぬよ人
[illegible]

てこうりかたらんにおかれたる[illegible]
ゆをひそめてこいひけるおこれとうそをしらぬ世の
のつとをこしに民をあつひこうの人のいつるよ
[illegible]と[illegible]
[illegible]
て扱ハ商人の和ごまて我とうんのやうつうまこれも中文
の[illegible]一文とうしうりふ
ふ天下の利よわしもやとぞ

十九

饅頭

[illegible]と[illegible]
[illegible]
方[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

理屈物語巻之二目録

一 [illegible]事

二 人倫万事塞翁が馬の変

三 物とたとへて薫とをとろう

四 子罪を[illegible]のがるる

五 [illegible]

六 馬とうぐるまの事

七 文字に付く加[illegible]

八 [illegible]天を[illegible]

九 [illegible]の奥者乃ろう

十 栄啓朝ゲ三楽乃ろう

十一 牛午の差別あるべし

十二 都雍ぬるとんとをたとる

十三 莊周亀をたとへより引る

十四 陳蕃室を掃除せざるべし

十五 あぶなきひとを失ふ事

十六 湯契ひしるもの

十七 利とこのひ事

十八 楊氏をもいてたるべし

十九 文子とうるべし

二十 愚かぬとき義をおしへる

理屈物語巻之二

一 與はたらくべからざる

りこう一番の西ふ王微之字ハ子猷と申人なるを王

てきあてをとるのるものこうねんの山陰にて有る

ある夜大雪ふりてたちまちのあけ月のこと

思ひ出しかの戴逵の居る所ハ剡溪と

いふ所ふたつの子猷ひとり

子猷その夜ふねのりて戴逵

をたづねゆきつき門あるまてゆき

うちの門をたたきてわれ

とをひらけ門をひらきて

ふねをかへしてそのまゝ

ひとりこの門をいでゝ我ら

ものもいはずしてふねに

のりてかへりぬ

二

人倫万事　雲義の事

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

四

子軍[illegible]のこと事

[illegible]宋の人たちひきれあり[illegible]そうしてこれを子軍[illegible]という人よりもうひとりそうけとりてい[illegible]うんぢ[illegible]ふ[illegible]とりてぢ[illegible]のたりとぢ[illegible]ふ[illegible]のひさかりざるとも[illegible]ふ[illegible]たりとあ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]たりよりつとれ[illegible]ふ[illegible]たりよりて[illegible]我よりあ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

もとうして笑ふあもてぐも化ぢ
ふあ〜ぢとうひてつるふ〜ぢ

七

文字に付くこの始末乃事

ひう〜こもや川隆家といふ人の酒ぬあ〜つるを拾ひとる
らんいつるとん人すこびらもの文字ま〜ま付くこの始末わ〜てつやうの
ひ月〜きるのもりにあ〜ら〜ぢるあれ〜ぢ拾ま〜ぢ〜ぢて
いつるあ〜おるぬ付たのあげひちふうちぢとたあさんうるあ〜ぢ
おうちあふ〜とうけ乃ふ苦あ〜ぢ〜ぢてあちるどうひよあ
それとえとさひ〜てぐ拾て来れたのこいひられ段ちん
やうそきうて茶とれて〜ぢうち来れの隆家ち〜ぢ〜ぢひう

八

秦宿禰と弾どう事

りん〜ぢ蜀のふあ〜秦宿禰家ふる勅とのふものこ〜ぢの弾ぬ
ふあのんぐ〜ぢ〜て拾笑ん物〜弾酒とのふりのこんひのあ
ていつ〜ぐ〜ぢふたとぢ笑ひのふうりや宿ぢ〜ぢて〜ぢ〜ぢ〜ぢて〜ぢふの
ぢうひ〜ぢもみあたぬ拾ちあふ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ
のとうとうんぢかうふ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ

[illegible]

九

[illegible]

十

[illegible]

十一

半平九郎乃事

十二

都雍ぬすんでうたる事

都雍といふものをごうくぬとうの
ふ一人をたりかるの一番の候ふ
といふものよかうていをくだれけさう一人ぬく一番のぬと人
とあとくくとうをいくせりの月
やといふ文ぶがいをくわうえけさう一人と見ひてうまいう
うぬとまちて番人とうくいをくうんとうあ数万文うろうえ
のまたいくにつうる弱うへうにげうえけさうも金ばうけうる
ゐまいふ弱とうといふものあいたらんや弱くいうまい一人とり見ていうん
そ一番のぬとうんとうくつうとうあうんゆくいうら弱ゆよまあとれ
たがうに弱番とうあひとうていうふうぶうをとうのあくうん
ゐとうふみゆ見都雍うゆゐうれいうぶけさうとあうくてを投
うくうくぬとうとせんとてづゆよけさうとあうてうを投
わうをいうを文ゆとめうていをくうんいうひうをぬうをけさ
つゆよ番のうあにうをされて弱せう今うを投ハぬとうんとうくつう

いうくてうをんとうをひゆ文ゆうをいうくけさうう弱せうを弱然
我よ番人とうくんゆとうをひゆうを弱我又その理とゆを見ひゆを弱
今けさうう弱せうをして我よとうをひゆゆ我ゆ見うんをゆをひうんゆを
ゆ番の候ゆうをとうをあうくゆ弱うくゆ番とうをうんゆとうをあゆを
なけさゆうゆ文ゆうをいうくを弱ぬとうのうを弱やうゆを治ゆゆうを弱
てどうくゆ番とうくゆうをゆうゆのうをゆとゆうゆゆを見うをとうを
ゆを見とうをうをのくうをうゆうゆうゆをゆをいうを見ゆをとうをうを
うゆうをうくゆを見とうをうをうをうゆをうをうをうゆを治ゆ
うをうくゆとうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

花月亀と花とのこと

うをうをうをうをうをうをうをうをうをうを文
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうを同とうをうを鬱くいを

りて楚の人とまうひ梁の惠王の時義縣の漢国乃奉
行ゆめうた卑彼なりしかとそうしてつくとうの使者
のうそをうけるあり時楚の威王ありて荘周と共
にうれる荘周漢のかうらよりかるうに使楚王よ
りうれつひようこうていひ願うるに楚王より亀を死して
うさ三千歳よりうれら今ひあるとあるきしつく等よりうもて宗廟
よりおさめとうひ亀死して掃除ようもれ宗廟よりあるもんよ
りうは生く尾をどうのうらにあるんるとそれ我ともうく
漢のうらに尾をうんるとそれ我ともうく
ひあるそつあるよりうくと

十四

陳蕃室を掃漢せざる事

りうらに陳蕃といふ人ありけるつひよりこの室よりに用
意してさうじともせされたる室宇もあるとそもとにあるさま
ありていうらにあり時又の女薛勤といふものうらてびていと
うらひそいうは鶴ふうんを室とりく掃除して賓客とりひり

ら[illegible]ぬそくいの[illegible]ハ[illegible]蔵[illegible]
そうくわ[illegible]
とはうちするとせんやと[illegible]
[illegible]

十四

[illegible]後同と先[illegible]
[illegible]漢の[illegible]
[illegible]の人[illegible]宣帝[illegible]
[illegible]
[illegible]

十七

[illegible]

十八 楊氏とまをしたてまつる

[illegible]

十九 文ふぶとをしたまふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十 魚とぬすびとの事

[illegible]

[illegible]

理屈物語之三因縁

一 樊英順帝に屈せざるの事

二 謝靈運海を愛するの事

三 騎の屬とそざるの事

四 佐久間一雲法乃の事

五 猟をやめて物をすかるの事

六 山河と狗うして蓋なれるの事

七 宋邦猟の事

八 君は茶と意の事

九 漢の高祖物乞人を殺さるの事

十 於龍長部ぬと人とそうゆの事

十一 紙屋のるとうけざるの

十二 赤子を配とあざけるの

十三 ぬとゝの食とうけざるの

十七 命ハ天よりあたるの

十八 河上義五長とあらはるの

十六 廉頗藺相如ゞ友

理屈物語史之三

一 樊英順帝に屈せざる事

りうこ後漢のちんちいといふ人ハ南陽とゝ云所の人ハ順帝
ちんちいう喫するのとき、ちんちいひとりひそびく伝よりあけ合て
ちんちいうれたちんちいうくるぞいしてつゆのうるのおもりの
うびくめうをゆへ後まのひるのとゆとしてつゆよりくるちん
ていよりまゝへりうぶりまた順帝れ伝うるのうそもりうれにわ
ねるのうれハりゝにうけうるのもの腰ひざとうひうるのとも
せとたくりづもうとのこりひそすうもう屈とうるのとせうるもうゝ
順帝りうてちんちいよりむりうてのうくげも伝うんびうらもれ
くうんびハりう民ならりまりあんびとりうんたゞハうんらとうるうん
たゞんちとうれうくせんたゞんちんらとゆくせんたゞんらとうまうん
たゞんらとまりくせんたゞみりりゞすゝうさうゝうりうんびうんむ

これで屠せとけうるとうらひとしてそのてうまとあぶうるう
ひあろゆへそこのあへらんたいがつくはこの命とえようけうよ
生くその命とたくはもえすうら死してその命とねうるもえへ
えうへえいりんではこの生し我とうろとうるえうへ我暴
逆うえとえうるうへ統欲とえうるうへうゆへよえうくうう
えのてうてふうそでうれくあけ月うえそはこはえとた
けうとうたたひ布衣のゆうたたあさ
らうへまううたたしうえのゆうむ天万蒙のうけ
えよまうえれうえうへえいりんそはこうとうくし我とい
くすううとえうんや礼よあうへうう栗ハたうひ万種
とうたた我えとうけたとうてうえうへのおうたうハたひ
一蒙れ食うた我あふもとううへや蒙ハえいりんそはこと
うへはこうとうくすううとえうんやはこうへ命ひへ
二 祈霊遅海うまうう終とうう

えうまうんが海うれうう終之西

[illegible]

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

四

[illegible]

[illegible]

佐々木三郎左ゑもんのすけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きんとらのめ

仏とたがひに毎年うまれかはりさいうひかてあるべきなり
河州山堂と彩つてあるべきなり
時節に出るべき三月分とはしるべきなり

七

国郡猟乃事

りうこに石部主といふ人あり鹿猟部といふ鹿にまはせ
くるゆへりうこにおる時あるこちとたつの野に猟をの
何てもつてとかりよりはしに猟をともなひいくびもく
まい毎日の作つのみくと餌食よりこれをとりあつ
あるこれをとりてはしりて肉をもつくすりうの度
とりたびたくあるとよりたくいつ石部主りうこは猟を国郡の
すこて我あいとりうに鹿部に野の狼と同じかりうこ
鹿の鹿部命のあるまいあるこれをとりて野狼乃鹿に野狼の
あるこれいつそ野狼の鹿とものそもんやとて出るまいり
雪水に鹿と言ふ事

八

りうこ国穀といふ人あり常にいつの人あり鹿とうひは
てこあいたつまけるあり時大雪ふりけるごくこうこ
あるこれをとりて国穀と言ふ鹿かよりひけるこれをとりうこ
りうこ鹿とものひるのかりうこ鹿といつ鹿かりうこ鹿
鹿鹿ふりうこ鹿のこれをとりうこ鹿常ハかりうこ
のひるのとりうこ作りんやたくつ
鹿鹿の泥とのこそたのこむのこと
してそのこれをとりけるこうこ
りうこ

九

漢の高祖項羽と楚の項羽とたくひのよりうこ祖の国
に蕭何といふ人あり漢中に居おるとこそたるとりうこ
こうこその陸へ出鹿とつけ高祖のたくひのよりうこ
いこそ漢中にこそ軍勢とりうこ
つあるは楚とうりうこ三下とこ

と掛し忠とうけ奉給とそうんとあるひろ高祖蕭何
う切れ才一てとと〳〵しとのの〳〵話を拾ひとそうて曹参こ
と敵城とせしを〳〵うち張我とすう射ちうち毎度のをうわ
けくかそうへうと身あへ七十余乃庭とあ〳〵ふまうちうわひさ
曹参才一の切うう〳〵といふうう祖乃ひうそんちう物とそう
事とうう〳〵貪獣乃わとうあうひうふをとひとも
けうのとうひいうて〳〵物人の切へうんちうう切ハたうハねの
うう〳〵いうんを物とうけて物人とひうう〳〵きけとせんをこのの〳〵祖大
ねうありうんへて蕭何と切才一うう曹参と才二の切とうう

十

新羅兵部ぬとうとうゆう事

ひう〳〵新羅兵部といふ人なをひよ給才〳〵まうくうびの玉ぐ〳〵
おうあう〳〵ひうひそのなをのとれ交のけううひうハうひうを今才
のひとうにゆうう衣とぬうてうとあひうをふぬうすうとうけう
かとうくうとう来ひうをんうをふのうう男一人をううてけうが月れあう

くまひろこしてるたのりうけたりしそをみけめろくさい
ちゑれもとんくおりくんとすまたぜんくさうそつあゆはカ
とちぶのなめ巻紙のあいてうそきろくのもろのとうろへ
ろれふ巻紙こそきぬもこたろちゑれたうろうそしちろう
ちるうろくこひゑくいろ紙ちんくといふもこそゆとれるくて
その生ゆゆしうるこそいたせるふちんとのこそいたるゆ
るたのりこうるの二人はること知るるこうぬとくはこうれら
するのうちはカとこうこうちゑくひうちにてまゆくもちんるいそは
るれうゑもんのるくそいひこをせうれる二人の老人生くゆこう
うこうくいひけうはうぶるうゆはカとけうてこうくのりくは
めけうゑはそくぬとくはこうこれ待りけうこそけこうか
しむるこうこうの巻紙すゆうちは老人とうくうゆふのね
もくはとりあぬく獄門まうけカとうこくてあうこれう
こいゑるのるくあうくはうこうちりり

十

千里乃ゑるとうけこ
のうこう巻文野幕といふみこうこう附けうゑ一月にゆかを
けうこうるこうそて文幕くなりうれる文幕もとうけこそい
こうゑ也使まいうう時ゆゆ返たゆ
かりゆうゆくは一月にゆ十里ゑるこそゆはゆこゆ後ゆゆ返た
ゑ乃ゑこすてこうそゆゑ也ゑうれら千里のゑにのうゑ里ゑれ
こせゆてゆゆくせんやこそずゆゆちきゑるこうくこう

十二

狐子龜龜とゆこけうゑ
のうこう後漢の龜龜わこゆ巻先こうゆ後龜乃後後こ云
西のくゆうゆは年巻紙ゆこゆ附書こうゆ月にゆこうて
ゑうこそ狐寢ゑうれゆ狐子ゑれもこそゆこうこうそゆこうこ
巻先ハ後後こうこうて書紙こうゆこけうこうゆ
しうゆくんこうゆゆこうゆこうこうこそこうこけうこうこ
けうゆ龜こゆハ後こう巻ゆこうこうこうこうこのこんこうこうゆゆ後を

十二

ぬとゝの食とうけさう事

りうこう東方に袁紹閑とゆきけるに月はさくともなく
とあくむしゝすりある時紙ゆきけるに
ゆうに餅てもてよるはらんとに孤父といふあるよ年とい
ぬとゝのうち袁紹閑ろうとそあるにつがのうちにさ
らうゝと食めと出てうめける袁紹閑もとうしひく
ひくなるよりてうひけるに月いるに人のうれうく我とあい
きこゝろやとりふ丘ハ孤父の年といふものゝくらい

[illegible]

十四

命ハ天よりあたへたる物やまひとなりてしぬるものなり

[illegible]漢の高祖やまひをそびやまひとなりてしぬるものなり

[illegible]

十五

河上義五郎

[illegible]漢の文帝みまかりたまひ[illegible]

河上義五郎

[illegible]

[illegible]

十六

蘇頌蘭相如が事

[illegible]蘇頌と蘭相如とハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 ぶけうこうのこうまつ

二 紫雀院内御歌乃事

三 樗樂ハ役よりぬ木丸支

四 院威積鼻禪とはいふ事

五 蛇と蟲くいとをもふ事

六 雜をぬとめるといふ事

七 被書云遣ふ金とひろぐ事

八 粗忽ふうと御ゝなる事

九 洞ゝふ乃三云乃事

十 ふたゝび不絶と云事

十一 法師よりんとして蓋と為る事

十二 梁塵を飛せざる事

十三 暑子京公を見る事

十四 酒瓶と光弟に与る事

十五 滿奮風をおそる事

十六 樣と海内の事

一 ぶを失てうまつかる事

魏といふ国に東門吳といふものわかき年月あ
てちぎりて一人のぶをまうけたりけるをそれ
そしるかとうく死よりけるをこれを東門吳八すこしとも
るをいとくいとくこのつのよ
のぶ死ぬるまで東門吳よりとくいとくこのつのよ
今はぶ死ぬるまたすこしもうげきなるこのぶをいきもま
しまるあいだ死ぬるあり外ぶ死ぬるあるこのぶをいきもま
ひけるかみのいけりてそこそこうつあとそひられる東門吳
いとくいまとちぎめる外ぶ死ぬるとうまつかる
てよるあるとうまつそこそこそもとあるしうまつかるとも
まいとうるるるる遂今みるあるるるるるるるるるるるる

時と同じ法にて我が身を先とせんと思ひてつかふまつる人と

二　朱雀院の御言葉

ひとへに朱雀院とゝもみたてまつれば時鳥の鳴くこゑ聞くばかりなつかしう思ひ出でらるゝ時々ありて御門にまゐりてゆかしき御ありさまを聞くにつけてもいとあはれなり

くまもなき夜の月に民おこらるゝ世にあらずとおぼしやすらひてよとのたまはせ

給ひしかども今すこしあつまりてだんだんに改まるべきことなりとて

仕ふまつらせ給ひしかども世のうつりかはりにしたがひてみなとけぬ

の作り絵に世のまつりごとの世のうつりかはりにしたがひて光源氏の

まつりごとは世の人の心にしたがひて花のうてなの作り絵にもあらず

民のうつりかはりにしたがひて腰がまつりごとにあらず

世のうつりかはりにしたがひて世の改まるやうにてうつりかはりぬ

けしきにまかせてうつりかはりぬ

三　樗樂は役ふたぐ

樗樂は役ふたぐ番匠あらはれ出でぬ木をかるに

ゆゑ曲物といふ物は橋様といふ木わりなるべきなり

木ふりてその大きさ半とかくとかくこゝに百ばかりとかくこゝに

とかくこゝにもぬきんでたる山にもぬきんでたる木のうるはしきを

切りて斧をたてゝ斧十挺とかくこゝに大きなる木を

切りたるもあり切りて先とかくこゝに市めとくさぐさ

匠石とかくこゝに匠石よりとかくこゝに

あやまちて匠石よりとかくこゝに

とかくこゝに匠石のかくこゝに

みてかくこゝに樗木とかくこゝに

しすぎたるかくこゝに

られ公員位にて公卿上人にもみなくうつりかはりたる

きはめてうつりかはりてまつりごとを

ていちんはさんるのこ

公道石のうくうんぐらうは桜木とたうてかんるのなれば
はは木は数本とて後のやまもたるぬ本と所よはるる時はもつて桜
樹よつるる時はすこやかに腐ぬよはるる時はもつて屋門
戸よはるる時はひとあき樹ようゆる時はひとあきくなる
やうたくさる木するゆへ人もとうるるものかるゆへよく余ふ
してたとへとうる海こんに畜函のうへさに人の浮うちんはるるものとも
るるまひうこんそんやつ移に浮とやうるうえ人とうたたとまるはたて
みうはに年れるるたるは樗樹のいのちうれよ用るうへうそえるう

四

流感猿鼻禪とはるるもの

りうこ番の西よ流感あるふは仲害といふ人を激留駅長の人
なら生れつき激怒りうて礼義にうるはなるものもはるるまう
せめて人のいるものとうるはまうこんに夫風うるうるうるうるに
叔父の流縁といふ人とたに作林のあるびとるるて作林乃せ
異のうるうるのせの人ふは流感とるるるるるるるるるるるるるるるる

りうは流感は叔父の流縁と南方にとまるひうるうるるるるる
まるうるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るる

いろうすうつてのむたぬんくゝ
ゆくへうしなひ又一人してのまふこうけたくよ
して地よ蛇のかうちとおうこてだゆくうこのあひ白をひと
つうてのまふへしとゆひくうこ白ものくちうへしとゆいした
もてよそうそふさこまうけう時よきうに一人うてそよ
ゆ書出してのの白とうてのまんこにあまうんのうにに
きてうこうひうん蛇よのけていうこ白ぷうこていうに白のつくも
ひうに白おいおうまゝぷくくよひう白さう蛇よ見とうへ
て書て白へうそひうう抗をひ
白をへけう時ようあうこうう一人うこ出うこの白とうひ
うひうて一郎ようこのこうけうの蛇とうにうちんよおて
うこうゆいれあうひう白とうてのこけうこあうこのうこうへ
とうひうれの白とうてのこうちんこうふこれ蛇ハえうう
のうこうのよあうに白うに今はふけふ白とうてうこうい

[illegible]

六 雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九

朝くらべ

のうち陸奥の雀部の数年しいたのくるしの
つぶれしてくるとしの郷の絵を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐをすゝひてゐもし三年ゝゐ
ゐるゝゝゐ又天下大ゐ毒ゐゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ
ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐ

十一

法師ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

もぬ人ゝをのりまれと侍しをゝ
ひよおこさゝ時ひろのゝとあゝ
らんもんうゝゝしてまつ法師
とあゝひけゝ扱つゝ所時
あんゝ法師の寺に被ゝ
ゝあひゝゝゝ蓋とあゝ
とゝひえゝゝけゝ
ゝゝ月日ゝゝ
らひけゝゝのゝゝ
ゝゝひゝゝ蓋とゝ
ゝて蓋ゝゝ
あさゝのたゝゝ

十二

高擬梁塵と物せさゝゝ
りゝ後漢の高擬ハあさかと文潮とゝ
ゝ後風義濤とゝ

ゝの人ゝ高擬やまひゝ時梁塵ゝゝ
しゝんのゝてゝゝゝゆゝ
ゝんゝて物化とゝゝ
ゝゝに侍ゝゝ
して侍ゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
擬ゝゝゝ我ハゝゝ
りゝゝゝゝ時ハ我ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝ

十三

異ゝ家ゝとゝ
ゝゝの京ゝ牛山ゝゝ

[illegible]
とふきゝ市ゐやうに和とわらそひ飛めいつくしき穀
[illegible]と俗とてうかれゆきかゝるを[illegible]とうとくいつくし死
せんものかゝ[illegible]ものをひふ
らかれみさとうていろくあ[illegible]
あ祥民はとそろていひけつかれ[illegible]の奉祿とうけく
ちうくまてくねるる猪車にのりてゞ[illegible]
あゆゝ[illegible]ひ給[illegible]とうというんゝ
とそとそといひてゞ[illegible]
つらにとゝ[illegible]若[illegible]言[illegible]とてゞ[illegible]
そふくのゝ[illegible]今日のゝ[illegible]
[illegible]みゝ[illegible]
[illegible]
めいゝ[illegible]極[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

う迎へ平つ〇よもとうう
ちあひうへうとうひくおとと
年れうくびうぬのすきまう
すうぐんの風うつうとうひて

十六 株とまり俗家事

りうう家のあにあうへ四郎やして長けうに四乃市に株
あうう〜うう兎いうくたうまうと来りてあうあぢにゆきあううて
うひとれて死うあうへううひやうぐて兎とうにうう
侍人敷とすて四もれうやうて又兎うあうてひ株りよゆき
あううて死をへさうさあうへうへうへうはせんうてひさど
うあのうあぢとまりぬけうへむうてあうあうものと
うあぢと海りうものとそいうへなり

一 白髮と傷どふる
二 支仏位とうけざ氣点
三 盞仏傷酒とのむ事
四 天乃塩ふくをあすふる
五 為すうへと旅の尼つまよもふる
六 仏ふ脇まうもとかけく陳ふる
七 かうう人新と穂まへ献どふる
八 傷の美奥家とあざうのふる
九 花ふけうう魚代とうる
十 年よりて新うへいむく大よおうる

十一

十二

孺子呉子胥伍夷叔齊兄弟のこと

一

白髮と論ずる事

[illegible]と同年の[illegible]尚文帝[illegible]

二

支伯伯夷とうけざる事

三

劉伯倫酒とこのむ事

りうとう一番の劉伯倫といふ者ありけり
そのひとりぐらしにて孔雀に乗ひろくして
ものと幕とを地と席とすりうつらしつ
のあるものなれども乗車にのりて海の
きたるこのつかひ酒とのこりあてものこし
けりよりて海のもとよりとりてもとめ
あるとけりそのくるひけりたのうつみたを
はんげそのとりてものるとうひへしてて
いりうりの劉伯倫とりてうとうのこ

て書よ色とうら来れとうひ付れ書色とすてつ伝ぐち
ろるそおこと[illegible]てるひこ[illegible]ろいあけろ[illegible]色とのこ[illegible]
ろおてこと[illegible]ろ毛るろこと[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
酒とのひるとあるへこと毛[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
りこけうひていろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
いまくめとあるへ[illegible]ろる鬼神よやてせいうんとこくかく
酒とうまくしへくうんぢ檀とあざらて酒さうふとこの鬼神
へそうへなるへくとひくうひ書こ[illegible]ろ[illegible]
のへくんのうへよそうへうれ[illegible]ろ[illegible]
てこ毛くこていろくぞこれと生そこうに色とのひとりて[illegible]
ひうこ[illegible]ろくこうひあに色一解つとのこ二日ろひとすう時又
あ毛つのあこそのまころひとこ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
今に[illegible]毛とこしへくにたこつまれいるろ鬼神こ[illegible]
ひこてこいひもあへと檀のうへすう色こうふ[illegible]

ろくくこのこりてひくこん鬼神へこうふこてこと檀ふこう
ろのくこ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
ろんこうふ[illegible]する時よくうとこ[illegible]
こそこひくこれ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
くくやこうろ毛ろ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
ひくこうくうひもあうまくこ[illegible]
うひるとこうくこくこうやれ[illegible]ろ[illegible]
いふ寛ふうこていのうすふ[illegible]ろ毛つあよ遠藤参軍と
ふこてこうこと

四

天の酒とあんどふこ
りうくこ花といふあひこうあこ[illegible]ろ[illegible]
ふ毛まこあうこいうくこあひのこ[illegible]ろ[illegible]
あこうこ毛こうこひくこうまこ[illegible]ろ[illegible]
なひこあんこて寛ろあ毛こうこ[illegible]ろ[illegible]
ここにあうくこひこることあんこ[illegible]ろ[illegible]

しけうひとりのこゝろをとりてうたんのひけうをとりてうたんのこゝろをとりてうたんのうれへをとりてうたんのこゝろをとりてうたんのこゝろをとりてうたんのこゝろ

ふとおりたあひたれ月とそのあとのあとそのけまてゝ
ものをあるとゝ思ふしてたちうれ
きこゝろ
たゝのゝ
たゝひよのゝ
きこゝ間くだらんと出ゝ
ゝてあるこゝのゝ
うるるよのゝ
つゝあるゝ
ゝてゝとゝ
つゝあるゝ
のゝあれ
つたちんと出ゝ
のゝあのゝ
ハゝゝよるゝ
るよのゝ

てあるこゝのゝ我三里うるるるのゝとゝゝ六里
あるこゝみるわのゝこゝけのゝこゝとゝあるとゝよゝこゝ
とゝゝおゝるゝのせんこゝゝゝ
それゝゝゝ

七

かるさんの形と猶主人秋とろ事

八

衛門の義経、奥州へ下向の事

きたるこれをみてこたへり

九

花子はうらうの奥とともうつる
もうこれ花子といふ人のまこと人の友に奥をおしいつくん
しう樂の毛ようへて多くの物語ともうつくふまう月
冨貴おもてもくれものと徒そうて家の毒法といふ毒と
ゆりうれ公れつ花子世界のうれて世界より引きうけたら
とたまくこ若うう友の毒ようわく冨貴の月とうりても
うれのそむんのたよゆうれとうそけうつうう奥のわまう
まうとすうこたらのうて法うと若うのらすてく奥の
みんをけうとうもい奥と時よわうらへたうと
しているぬうの富ようつもうもうれうう月冨貴みて
毒いうふけうへうまみと物びひて毒うれとりてんうあ

十

年ううて都うれ
ひうう無大ものの物法上ん若うう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二　伯夷叔齊兄弟の孝行にあらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 荘子奥のたりことを記する

二 物の妖しきことあらはれぬる

三 物死しうまひとしてあらざる事

四 斉の宗室乃美をうしなふる

又 斉乃閔王の行ひよ富福ある事

六 日月のさと光かゝ献ぢる事

七 候をしらんとて雲を言をとゝ所る

八 原穀祖父を山へとつる

九 分子推禅上山まして焼死る事

十 鉞をとゝ所へおとしたる

十一

桐の葉とりて弁と材とする

一

荘子曰乃たのしこそとをるる

りうこう荘子あそぶハ荘周といふ人なの惠子といふ友

とりの濠梁といふ所にあそびけるに荘子曰魚の水に出

てあそぶゆさうあるこそ魚のたのしこそとをるるとい

ひて類しられぬ事なりとこそいふくぢんじハ魚にあらず

ていかんして魚のたのしこそとをるるやといふくぢ

んじハ我にあらざるを我をもわきまへしていかんして

魚のたのしこそとをるるやとこたへて魚のたのしこそとをる

るとをるるやとこたへいふ

二

物のをりふしとあはれ

りうこう桂陽の太守に李叔敖といふ人をばしんのいふ

ひとりこそ物をしてゆつりをけるゆへにいろく

乃ちをしきあるらんある時は物うしわとそこそのあゆ

びうとくみてあるきられ武人おくあやまりとそれも
とろうんとうひけうに叔父あぐいうとうみ〳〵うちあるに
みにとうとそれうちば物ろんのあうちとそこのうくびう
あうきうもぬものうう〳〵きうといけうんでおやしきおそれ
てもとろうんやいうまきに叔父あぐのものうまま
うへよめううあうてうて冠と楊乃うへようけとうまとれに物や
そしば冠ととうてうがうらにいうきうそあうきうれ武人をう
くるおとうきあうしこけうに叔父られとうそにうにあや
きうにしていううに物あうまうて冠乃うけううそどとうに
とけうゆ冠乃ゆとびよあううてけうきうにううきあう
とくんあううへきうとうんでもとあやまんやしいうう
きに又に物うまどれまへよあうくやうきうれに武人をく
くあやしきとそれうれに叔父又いうくうト女童僕ともあ田乃
てあうもれうとうきものあうにかううゆへよ物もとれうきけてに

三

狐死ろうまゝとてこゝろさだめ
ひつじわらうにんにつまとして狐たのうさらに

狐わらひて茶の狐とやりつらんとしらぬくのひと
ちくぬけうう狐ひにんのものまとそこひろふ
げどしてびまくちにあるうまうにんのちいまれとろ
又あけるいふあくあるへてうらうろ
りてあろうまゝとてびにんの
とびひとちひろうゝいづるうるたあくへとひまあて
にはくとの目とうろ怪とせんてあとうとくに狐こそ
れなのにんのちびあるうとくまに狐こそ
なまといひてたびひよもとろうんとあるとひけうゝ
ひ狐の耳ととうんとうとゝいまゝ
耳とうんとうとゝ狐もとはくふうんのうちにふ
やうちめるとそもうにあけらくとふうふうん
うるとえ見よまるせてあくにに死とろまにと
しそうりてけうるのあるとうけうくるけうくるす

あるこいへたうひとあるいはまた耶尾形とさるれたうぶんのそ
いまさ命いたをとうへ〜とんのうらよたのくとびろ雄
今二人のいろく耳尾牙とさうとつたむりうくうくらびと
うろへとひしろふ時狐大よあとうたのこあうと
とさうまうはれあよ命をうせぬへ〜ふうふひていあくらび
とさうまうくあうとあうとびあさあげくうれうるまそ
もうた命いたをとうとうこ〜ふうろいあうくあるみけくあろ
さうへ〜ひ〜あけのひて命とたをとうるいうげよすう変あり
とふひ立めておさあうら野ととうるいあけそれば人のもも
とそさてふ今まていりうあうたあうまひとておれうとたふ
らうけうそあうさもうふのうひんだれありはあそうらこうせく
いひもあへをおうへうろうあよありつあうろうびをうらあと
あうふをうく命をうるひけうりうとんだれいとのまうせうれうふ
とうりんとあさひうさたふうろうんとすうるふうるよりげすの

まさりひとうるはぐるみひ猟より用ひうへ〜

四

麻の京丸薬と名ふる

もろこし麻の京丸といふ丸薬はくすりとして十日よ
りのち時よりあり麻京丸ゆめに二つの日と名ふるもろこし
はゆめよりもとしてまけうらとまんのあり日腎下暴
まりて海こへられい京丸とつくのまくゆめ二つのもと
たくひくまけうらと薬とんこりぐふくさ石ちう薬へ去
るゆめ丸薬をもてこへ暴ひとろのへいくも
薬とうるゆ物をとてうるせ物へとて薬とうる
ものとたらぐれうに薬とうるものとたくさも
ゆめあり物てうれうくの薬ゆ丸薬ゆ
とあうられい薬とうるものたよおろさ光ゆ書のこへ
とあうさんへてうなひ物へしくゆ暴ゆはくうんら
書ゆへうるのあり丸京のやまひいゆへしそれ紙

八張ちう月ゆ湯へ今京丸ゆやまひうそ二の日と名ふるてい
名ふこと薬丸のゆ名ふる時ゆ一張ゆやまひう二湯の日とまけさ
名ふうやまひのまけうゆ病のゆ丸ささうへもとゆて
名ふる時ゆ京丸のやまひゆすうやゆ丸ゆへ〜ぐんぐひとうを
とゆて京丸へやとういひとうへうれゆ薬とうるものこ
のうゆ暴ゆうとうものうく京丸へやとうれゆ三日ゆ
て京丸のやまひゆうこうひ薬とうるものこ
ろゆあり〜なり孫を名ふゆ薬とうるものもと
辞遠〜うけとしていく今ゆの薬とうるものひ物ゆ
切ゆくゆ物へとゆ暴ゆはてゆ京丸ゆうとで
丸暴ゆう切なりとゆうとゆ物ゆうて孫とう
けんゆ〜いゆ京丸暴ゆとゆてひうくと名ふうれ暴
ゆういうくうの薬とうるものゆうひとへうるゆとと
ゆて京丸へやとうゆ名ふゆはゆものやまひとすゆやひゆうら

ゆもらひとして彩流とゆひてうるひ物ゝ
のさいあるれて恋のやまひつるよいまへ
う流とゆらひうるゆいもと義とうしまふものゆへうみ
とゆうまとゆひてゆあけあるいもと伝郷ものふまど
うまハ義とうしうまふものあるとゆひてえ
もと伝しまふゆへよその伝ものあるゆのんまひうされ
てやまひれのすまゆにひてうもゆ義とうしまふ
のゆあみてうあるうるゆいうんそゆなく
して孫とうしまふものとせんやうてけのようけと歌
云せんうるうて義人よ彩孫とゆひうるとうにおして
婦ゆハ人のゆとうをうひ義とうしまふものハんの孫とお
ゆうひまうにせのんうもとゆひものうてうう
ゆハのゆうへうるひ

歌

孫の図まうゆ

ゆ孫ハよ宮ゆ猫ゆうう

りうこう寿の関主の病ハ[illegible]癌あるとけり
ゆへその名と富瘤といふ富瘤ハなりといへ共民の
ひとめへそのこと関主いそく東郭あるひとれハ一国ま
民百姓関主のはあるこそそこのくにのそこ[illegible]けりに
富瘤ハ癌とあるへ[illegible]ハ業の業ふとしてあるとこ
うぶらにまとうこうこんろうのあるこ関主あるへ[illegible]そこ
のあるくとれ今日いそくあるへハ国の民百姓こ[illegible]
ひまつのそこんろうぶらにまうもこれと
たろうのうれハいはるのうやこうのハ富瘤こうて
いろくとれハ父母のあるへとうけく業ぶら[illegible]
まの出くあるひのへとんこのこうへとうけこ[illegible]
うゆへよれまとまうのあるへとうこ関主ま[illegible]
そはあるあるうぶらまれあるきるハこうぶるそこあるこん
おくしとのあるへハ富瘤ハいこくあるへ[illegible]

てこんあるひこすこ業ぶとうこ[illegible]
なんあるこの[illegible]あるへ富瘤こうのこうこ[illegible]
ひやとのハ関主いよくあるこうこひて光[illegible]女[illegible]
よせんこそこうこのこうこんこのハ富瘤
ういこくそれ父母ようげこうせひして[illegible]光と奇女
こいふとれ父母こうこうこうとうげこうせひして[illegible]の[illegible]
こうハ光奇女こうこの奇女と名とこ[illegible]
りんやこのハ関主こよこうこそこうへあるこ[illegible]関主黄金百
[illegible]とおこうこのハ富瘤と父母
こうおこうこするおこうこ衣服こうこ沐浴してゆへ
このハ富瘤ういこくあるこうこうこうこ
こうこ今まこ衣服こうこてゆへこんこうこ
ひこそうあるこうこ業こうこ時のこくあるこ関主
こうこのこうこ後ハこうこ富瘤ゆへ

その他瀧玉まそなひて玉ゆさん瀧ゆとろとなり

六　月あくとをとよ秋とは事

めつら〜宋の玉に四更ゑこ表まつ〜でつひよふすこと
ろとをとそ〜りふ冬をとあくらけうやう〜表みあれハ
四ふひて東徳としけうに月せるうにあらてあくうれハ
四更ゑとをとうらひうて〜日とゆのくうあうあめ
うふくれとくひうあとあくうにをとうのハまくと世にあ北ど
とふひてうあよ瀧布れあくうあくとをとくひ
四更ゑうあ表をまゆうそくうらけうふ世の中に日ふあうらう
ウくあくうあうりのいうをまゆ〜ちくとせうの人ゑとをとうに
しそみうらにさひくとくふをそもあ〜くれふさひてうかう
まうあくうくをとゆのゑハやあけくおりれはとんあうにあ
つうんとふたりをとそだよりあうひいくくけうとなり。
海こんに井のうらのうりハ人海とをとくいうう瀧ともまくを

うれしとおもうあるうへにもさてはれものうへとうとひ
ろうることにてはそこのうへにうへにうへにうへにうへにうへ
ひう〜潟四といへはこのあそこにあるうるはあるうるはあるうるは

いさあれたちにいさあ月ひとして父興と法ろうてきろ
くこそ殺さあくこの乃ものこ小たくの法ろ法ろ和ろ父さた
はくろくろに殺殺あてごとをとそそけろ梅父さた
たとをもらてくろくれは父光をとそなんぢいんそをとと
をそくはくろくうをけくそくいんの京殺ういくくれは又ロくの
のくれくひくひくさのふたの法の山へをそや時のあはる
てくろ待くうくいひくくる父光よをくこれてつの鷲父
とあにのせくろをはひくさすくの巻ひとけくとたら
京殺はまくくたびひる法巻ひうの孫まうくをそれとなの
せにあけくるとはをはの親のあくきうのくとるもといさむと
いたはくはいさあと月ひのはくうくの法ばいんたをとくやう
あくうくたひ殺殺は父のあくはくくうひのくう父のあくと
いさあけくるのうくは父よさくうあはといひくう父と巻の法ひ
はいくくといひ家ちくぬ巻孫乃ものたくくへし

九

かゝる推鄉上山のそなたに屋敷をかまへ
りゝて番の文云といふ人に番ひ
う紋云謙姫といふ獨とてうあひたりまつけうに謙姫が婦
人のゝ文云とゝ思ひ思ひのいたりあしけれる献云と説云と
して文云とらうさんをけるとゝ文云おそれく他所へあげて
らまけるひ時よりひつきたりうそうひそあけうるの狐偃
趙衰顛頡魏雠牛かゝる推ひとゝ人なるもうそうしあくも
かゝる推ひとりいりまこの時ちりかたりけり
曹といふあるて文云他て死せんとしかゝる推ひ殿と
ゝ文云はまるせたゝやうく命とたもけうゝ後献云死
し給ひて文云つゝよ中西へうりて献云のあとゝつゝの時
投あけちらまけう時よりつきたりうそうひそたりとゝ
たとのゝうゝ辭稼とあゝなりふよひとりかゝる推とりとれて
辭稼ともあゝなりれかゝる推ゝとうゝて帝上山

とゝいふ山へ引こりてつゝよりゝ出ゝゝれたゝけゝされたゝ文云
ゝまゝかゝる推とゝひ出ゝゝいさゝれかゝる推よつゝ云
たりふゝの一蛇独死とゝいふ猪とゝ文云の文門より書身れか
文云ゝとゝてゝめてかゝる推ゝゝとゝひ出ゝてけゝ稼
とりゝれてあゝへゝゝりゝを後悔して意ゝさんとゝりゝ
て辭稼とあゝりゝへゝとゝめゝりゝれたゝる推けゝ山と
いてゝとゝ文云ゝふりゝてゝひ出ゝ思案とあゝへゝさゝれか
たゝせんゝゝあ。おゝゝゝあけゝりゝゝゝゝゝ山よゝとゝけて
やゝゝゝひ猪ゝゝゝかゝる推ゝゝゝゝゝ文云ゝゝゝゝ
ゝてゝりゝれんとゝりゝて辭稼ゝゝゝゝ山よゝとゝけゝゝゝたゝ
ひゝへゝゝゝかゝるよゝりゝゝゝて本とゝゝゝて屋けゝてゝ
けゝとゝゝゝりゝゝよひ山とゝゝゝけて山とゝゝゝ後のゝへ
とゝりゝゝてゝかゝる推ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ三日ゝゝひゝさ
ゝゝゝと梅ゝゝてゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の後一百六日にあたる日に[illegible]子推の死[illegible]日あらそ[illegible]
[illegible]合はせいひて火をとぼしてあるとなり

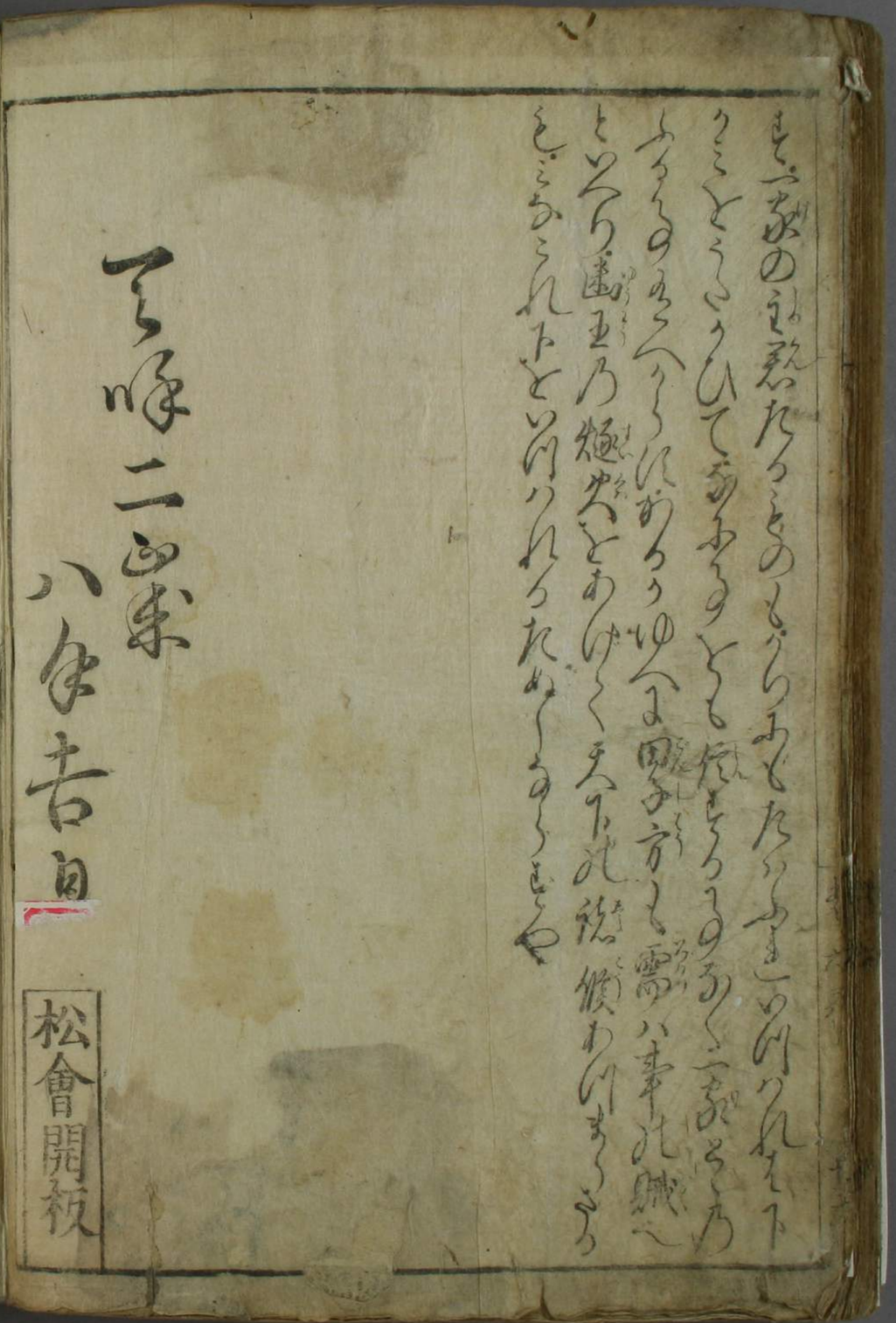
十

劍を[illegible]へおくに[illegible]
[illegible]楚王よりあるうへ[illegible]
[illegible]あのうらうらあやまりてもに[illegible]
しけるものやうそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
無[illegible]のうへにまもせくゆき劍ハゆゑにてりとれあらう
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十一

相の[illegible]をとりて[illegible]
[illegible]

[illegible]
あるとひのひけるの時をうこ[illegible]
て奉[illegible]とあるこ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

合本六冊之内

東都書肆
深川佐賀町
竹内伊助梓